令和2（2020）年度 相愛中学校・高等学校「学校評価」

1. めざす学校像

相愛中学校・高等学校の教育の柱は、仏教とくに浄土真宗のみ教えに根ざした女子教育であり、130年をこえる歴史を経ても、建学の精神である『當相敬愛』を見失うことなく、自利利他と共生の思い、知性と教養、品格を備えた女性を育成し、社会に多くの有為な人材を輩出してきた。しかしながら、ますます激化する私学間競争に生き残り、本校が発展的に存続していくためには、他校にはない独自性を社会および本校のステークホルダーに対して魅力的に発信し、信頼を獲得していくことも必要である。

昨今、少子化問題、超高齢化問題など、社会を取り巻くさまざまな課題が取りあげられているなかで、インターネットの普及や AI の発展など、社会構造のグローバル化がますます加速化し、人の社会的関係性、役割など私たちの身近な環境が大きく変化しつつある。これからの社会においては、人と人とのつながりに“響感”する豊かな感受性を原動力として、新たな社会を創造し、その形成に主体的行動力をもって寄与していく女性の活躍がますます求められていくことは間違いない。長年にわたり、女子教育を担ってきた本校だからこそ、次世代のグローバル社会を見据え、キャリアデザイン能力を伸ばす女子教育の重要性を改めて感じている。

このことを踏まえ、今後の教育ビジョンとして、『當相敬愛』の精神に根ざした「自利利他」と「共生」という仏教の教えの本質を主体的に、そしてアクティブに探求することのできる学びと実践の環境を拡充、発展させていくことで、次世代の社会的ニーズに適合する「グローバル社会に貢献する女子のキャリアデザイン」の推進を図り、これを本校の特色ある教育活動として確立することをめざす。

2. 中期目標

本校の教育ビジョンを明確にすべく 2018 年度当初、「相愛中学校・高等学校第 1 次将来構想～その方針と推進方法」を土台として、具体的な教育ビジョンの策定に取り組むべく、将来構想委員会をスタートさせ、2019 年に第 1 次将来構想を策定した。第 1 次将来構想の策定にあたっては、これからの社会に求められる人物像をいかに捉え、どのようにその育成を図るかという点に重点を置き、当面（約 5 年間）取り組むべき課題について取りまとめた。今後の教育活動の方向性としては、2015 年に国連サミットにおいて採択、スタートした国連グローバル・コンパクト（UNGC）の取り組みに基づいた「持続可能な開発目標（SDGs : Sustainable Development Goals）」の推進を、建学の精神の具現化を図る中期的な達成目標と位置づけ、その達成に向けた探求学習、課外行事などの活動内容を具体化させていくものである。

また、第 1 次将来構想では、以下に挙げる教育面の主な改革テーマに関して、具体的なビジョンを 30 項目にわたって示している。

- ・教育の質(1) 建学の精神を具現化する教育活動の再構築
- ・教育の質(2) グローバル社会に貢献する女子のキャリアデザイン
- ・教育力 教育行政の変革をふまえた教育活動の高度化

3. 自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見

<p>自己評価アンケートの結果と分析 [2020年12月実施]</p>	<p>学校関係者評価委員会からの意見 [2021年9月8日実施]</p>
<p>○生徒</p> <p>各質問項目に関する回答の状況は前年度と同じような傾向にある。各項目において、「大変満足している」を+3、「満足している」を+1、「あまり満足していない」を-1、「満足していない」を-3として算出した満足度スコアで見ると、全25項目の内、今年新しく設定した項目「オンライン授業」を除くすべての項目において前年度よりも評価が上がっている。前年度よりも0.3%以上評価の上がったものとしては、</p> <p>「学習習慣指導（スコア：1.1→1.3）」</p> <p>「丁寧でわかりやすい授業（スコア：0.9→1.2）」</p> <p>「学習意欲を高める学習指導（スコア：0.4→0.8）」</p> <p>「授業の進み方（スコア：0.4→0.8）」</p> <p>「小テスト・朗読書等の学習効果 (スコア：0.6→1.1)」</p> <p>「宿題の量や内容（スコア：0.7→1.2）」</p> <p>「礼儀・服装・協力姿勢育成指導 (スコア：1.1→1.6)」</p> <p>「問題対応（スコア：0.4→0.7）」</p> <p>「教員相談（スコア：0.5→0.9）」</p> <p>「施設・設備（スコア：0.9→1.5）」</p> <p>「安全管理の充実（スコア：1.4→1.9）」</p> <p>「感染症対策（スコア：1.1→1.8）」</p> <p>「情報提供（スコア：1.3→1.8）」</p> <p>など、学習指導に関する項目や教員対応が中心となっている。また、すべての項目において、3年連続で評価が向上しており、今後も継続して教育内容の充実や生徒、家庭との連絡を密にし、評価を向上させることが求められる。</p> <p>○保護者</p> <p>過去5年間、各項目に関する回答状況はほぼ同じであり、前年度と比較してもほぼ横ばいである。</p> <p>「宗教的行事（スコア1.8）」</p> <p>「礼儀・服装・協力姿勢育成指導（スコア1.4）」</p>	<p>・全体的に中学1年から中学2年にかけて下落している。コロナの影響かもしれないが、ギャップが少なくなるような取り組みを期待する。</p> <p>・ICTが整備されているので、それを活用し、学校生活を保護者へよりオープンにできれば、保護者の評価が改善されるのではないかと。</p> <p>・クラスによって評価の差がみられる。生徒の評価が保護者に伝わり、それが評価に現れると思う。原因を明確にして対応し、差が縮まるようにして頂きたい。</p> <p>・保護者・在校生・教員の三者間比較では、教員と生徒・保護者との乖離が大きいの。この意識の差を埋めていかなければならない。</p> <p>・クラブ活動や学校行事の評価は、コロナの影響で評価が下がってもおかしくないと思うが評価が上がっている。</p> <p>・「オンライン授業」の教員の評価が0.2であるが、先生も初めての事であったし、手探りだったと思うが色々対応下さった。</p> <p>・学年によっては教科の先生が毎年変わる。教えるテンポが速い、教えるポイントが異なる等で、授業が分かり辛いという意見がある。そのような事が全体的な評価に繋がっていても考えられる。</p> <p>・生徒の評価が保護者より上回っているのを見れば、生徒は満足して通っているのではないかと。教員の評価が高い所もたくさんあり、誇りや愛情を持って生徒対応してくれている事がうれしく思う。</p> <p>・施設の評価が上がっているが、施設のどのような部分</p>

<p>「校則遵守（スコア1.2）」 「教職員の服装、行動、態度（スコア1.4）」 「安全管理の充実（スコア1.4）」 「感染症対策（スコア1.4）」 「情報提供（スコア1.3）」</p> <p>については評価が高い。</p> <p>その一方で、</p> <p>「丁寧で分かりやすい授業（スコア0.4→0.6）」 「学習意欲を高める学習指導（スコア0.3→0.4）」 「授業の進み方（スコア0.4→0.4）」 「宿題の量や内容（スコア0.4→0.6）」</p> <p>については、昨年度よりも改善は見られるが、依然として評価は低い。これらは教科指導の中核であり、保護者の学校満足度を上げるためにも一層の改善が必要である。</p> <p>○教員</p> <p>各項目の評価は、過去3年間と同様の傾向にあるが、「礼儀・服装・協力姿勢育成指導（スコア1.5→1.4）」「説明会・懇談の充実（スコア0.6→0.2）」「家庭との連絡（スコア1.8→1.5）」は昨年度よりも評価ポイントは下がったが、これら以外の項目において、前年度よりも評価が改善した。それぞれの評価スコア改善の具体的な理由については今後精査が必要である。</p> <p>○全体として</p> <p>「生徒・保護者・教員」の三者比較ではそれぞれの評価に乖離がみられる項目が多く、その原因が何であるかを探り、教育の内部質保証を確保するとともに、生徒や保護者の学校満足度を向上させていく必要がある。</p>	<p>が評価されているのかはわからない。現場にいる先生の意見を分析するのがいいのではないか。</p>
--	--

3. 本年度の取り組み内容および自己評価

今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 将来構想の推進	<p>2019年5月策定の「第1次将来構想」に基づき、</p> <p>「将来構想委員会」を年度当初より計画的に開催（週1回）し、各部署が作成した「実施すべき活動にかかる計画書」の検証を継続する。</p> <p>計画書に基づいて実務レベルでの各種活動の詳細を調整し、実行する。</p>	<p>将来構想委員会を定期的に開催し：</p> <p>1. 「将来構想委員会」を年度当初より計画的に開催できたか。</p> <p>2. 各種活動が実行できたか。</p>	<p>目的や活動の明確化については将来構想委員会において推進を継続できている。</p> <p>1. コロナ禍において、途中、不定期となったが、継続的に開催することはできた。</p> <p>2. コロナ禍にあつて特に推進力をもって実施したのものとして「5-3 高大接続改革に伴うICT教育の推進」では、コロナ禍においても生徒の学習を保障するため、生徒、教員間の双方向の学習活動を可能にする「moodle」やMicrosoft社「Teams」、リクルート社「スタディサプリ」等を導入し、オンデマンドに始まり、オンタイムのリモート授業まで展開させることができた。</p>
2. SDGsに向けた取り組み	<p>SDGsに向けた探究学習や課外活動、国際交流を通じた質の高い教育を推進する。</p>	<p>SDGsをコンセプトにした探究学習を各学年で定期的に実施できたか。</p>	<p>コロナ禍の影響で校外学習が中止となったが、その中で企画していた探究学習については内容を再検討しつつ実施した。一例としては、「ビジネスアイデア × SDGs」というテーマのもと「“誰一人取り残さない”持続可能な社会」の実現に向けたビジネスアイデアを競う「第15回 龍谷大学 高校生ビジネスアイデアコンテスト」において、高校2年生全生徒によるグループ参加をすることで探究学習を継続した。その成果として、2グループが最優秀賞と優秀賞を獲得することができた。</p>

<p>3. 建学の精神の具現化に関する事項</p>	<p>法要や宗教教育研修会の実施を始めとする宗教教育の充実を図る。</p> <p>SDGsに向けた宗教教育の取り組みを推進する。</p>	<p>宗教教育に関する各種研修会を年間行事として年1回実施できたか。</p> <p>また、宗教教育の一環としての各種法要を定期的に実施できたか。</p> <p>SDGsに向けた諸活動を実施できたか。</p>	<p>2020（令和2）年度においても、保護者および教職員を対象とした宗教教育研修会を年間行事に組入れ実施した。また、法要に関しても、年間行事として定期的に実施することができ、本校の宗教教育にふれる機会の拡充をはかった。</p> <p>法要後に全生徒に法話感想文を提出させ、それらを取りまとめた冊子『響流十方』（第7号）を発行した。</p> <p>これを含む宗教教育活動は、千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要にかかわる募集作文選考において、2年連続最優秀作品に選出、全国児童生徒作品展においては、特選1名、入選2名、佳作8名が選出されるなど、情操教育としての一定の成果と評価を得ることができた。</p> <p>2020（令和2）年度は、コロナ禍の影響で十分には実施できなかったが、今後も、コロナ禍における新しい生活スタイルの中、可能な方法を模索し、建学の精神「當相敬愛」の具現化をめざして新たな取り組みを企画・運営していく。</p>
---------------------------	--	---	---

<p>4. 教育活動の展開と充実に関する事項</p>	<p>(1) 教育活動の高度化</p> <p>① 中学校</p> <p>令和3年度に向けたカリキュラムの改定</p> <p>② 高等学校</p> <p>(ア) 特進コース</p> <p>進学実績を積み上げるための仕組みづくりの強化</p> <p>(イ) 専攻選択コース</p> <p>外部模試の活用方法を見なおし</p>	<p>教育内容の高度化が実現できたか。</p> <p>改定ができたか。</p> <p>具体的な取り組みができたか。</p> <p>具体的な方策ができたか。</p>	<p>中学1年： 生徒の発達段階をふまえ、日常の学校生活の中で情報の受け取りおよび処理をする能力の向上に注力し、中学教育の土台形成に努めた。</p> <p>中学2年： 校外学習や宿泊行事の事前学習を活用し、生徒たちが自主的にクラスの枠を超えて話し合い、学年および自己分析をふまえて深く考え、相互に協働して行動する場面を設けた。</p> <p>中学3年： 探究学習を通じてSDGsのコンセプトをもとに、自己の周辺を見直す機会を設けることができた。</p> <p>令和3年度に向けてカリキュラムの改定を行い、旧カリキュラムの「総合的な学習の時間」で実施していた各コース特有の教科を、新カリキュラムでは「学校設定教科」に移行し、コースの特色を明確に打ち出すことで、公立中学校との差別化を図ることとした。</p> <p>各種模擬試験の後には、関係教科・学年教員が参加する分析会を行い、今後の指導に関する方向性を共有した。</p> <p>「学びなおし」を主眼に置いたものに組み替えをはかり、リクルート「スタディサプリ」を導入した。</p>
----------------------------	--	---	--

<p>4. 教育活動の展開と充実に関する事項（続き）</p>	<p>(ウ) 音楽科 オンライン英会話の拡充 英語4技能の習得・向上のため、普通科特進コースで既に実施しているオンライン英会話の拡充を検討する。</p>	<p>オンライン英会話授業が導入できたか。</p>	<p>2020（令和2）年度より音楽科へ拡大実施することとした。</p> <p>さらに、2021（令和3）年度以降は普通科専攻選択コースにも導入し、全学的な取り組みとしていくことをめざす。</p>
	<p>(2) 特色ある探究学習の展開 SDGsの推進をコンセプトとし、特色ある探究学習を展開する。</p>	<p>各学年において特色ある探究学習が展開できたか。</p>	<p>各学年において以下のテーマに探究学習を推進することができた。</p> <p>中学1年： 生徒のコミュニケーション力を注視しながら、コロナ禍をふまえて気づいた自己の課題と向き合わせたうえで、2年以降の探究学習の土台形成に努めた。</p> <p>中学2年： SDGsのコンセプトを意識させたうえで、平和学習と組み合わせた探究学習を行った。</p> <p>中学3年と高校1年：「ソーシャルチェンジ」と題して、社会と自分のつながりと課題を主体的に探求。</p> <p>高校2年：SDGsに基づく探究学習を定期的実施できた。</p> <p>高校3年：コロナ禍により制約もあったが、地域や世界とつながりに基づく探究学習を行った。</p>

<p>4. 教育活動の展開と充実にに関する事項（続き）</p>	<p>(3) 教育施設の整備・充実</p> <p>文部科学省「GIGAスクール構想」の推進</p> <p>コロナ対策としてのオンライン授業の整備</p> <p>大型提示装置の整備</p>	<p>「GIGAスクール構想」による補助金獲得を推進できたか。</p> <p>オンライン授業の環境整備と実施ができたか。</p> <p>プロジェクターおよび大型ディスプレイの整備ができたか。</p>	<p>国庫補助金事業に積極的に申請し、中学校における一人一台のiPad 端末整備とB棟3階～6階各教室およびA棟(音楽科普通教室、講堂、自習室、面談室ほか)へのWi-Fi環境整備を年度末までに完了した。</p> <p>コロナ禍における生徒の学習保障を目的として、学習ポータルシステム「moodle」やマイクロソフト社「Microsoft365」のアカウントを生徒に配布し、動画授業や課題の提示・提出とフィードバックをオンラインで行えるようにした。またリアルタイムのリモート授業に対応するため、「Microsoft365」内のWEB会議機能を備えた「Teams」を活用した授業形態を構築した。</p> <p>各授業において取り扱う教材等において、より視覚的効果のある教材提示を可能にすることを目的として、各教室で利用可能な超短焦点ポータブル・プロジェクターを7台整備した。またコロナ対策で密を避けるため、講堂で行われる法要やセミナー等をオンライン配信し、他教室でも受講できるように65インチ大型モニターを4台整備した。</p> <p>今後の課題としては各授業におけるICT教育を推進するため、各教室への大型ディスプレイの整備に向けて検討を進める必要がある。</p>
---------------------------------	---	---	--

<p>5. 進路指導に関する事項</p>	<p>(1) 各コースにおける進路指導の展開</p> <p>①高校普通科特進コース</p> <p>生徒個々の学習状況やレベルに応じた指導を徹底し、国公立大学や難関私立大学の合格率向上につなげる。</p> <p>②高校普通科専攻選択コース</p> <p>生徒が希望する幅広い進路に応じて選択科目を履修できるカリキュラムで、大学合格率の向上をめざす。</p>	<p>大学合格率の向上</p> <p>大学合格率の向上</p>	<p>特進コース担当教員による会議を定期的に行い、模試の成績分析や大学入試の動向等を共有するとともに、授業だけでなく、放課後などを利用した個別指導も積極的に行った。その結果として、同コース在籍数12名に対して、国公立大学進学者1名、関関同立・産近甲龍・三女子大等の難関私立大学合格者12名と一定の成果を出すことができた。</p> <p>国公立大学進学者を1名出すことができた。また同コース内に設置する7つの専攻のうち、特に「看護受験専攻」でも、一般入試制度を利用して全員が進学先を確保することができたことは、学習指導および進路指導に一定の成果があったものと考えられる。</p>
----------------------	---	---------------------------------	--

<p>5. 進路指導に関する事項（続き）</p>	<p>(2) 進路ガイダンスの充実</p> <p>高大連携プログラムによる教育活動としての進路ガイダンスの実施と充実</p> <p>(3) 相愛大学への進学率の向上</p> <p>普通科専攻選択コースから相愛大学への進学率改善</p> <p>本校から相愛大学への入学者に対する奨学制度について、高校3年保護者・生徒対象の各進路説明会に加え、高校2年保護者・生徒対象の説明会でも説明。</p> <p>相愛大学と本校との入試および進路に関する連絡協議の場を年3回設ける。</p>	<p>進路ガイダンスの実施充実ができたか。</p> <p>相愛大学への進学率の改善（高校3年在籍数の25%を目標）</p>	<p>高校1年で1回（中学と高校の学びの違いについて）、高校2年で1回（志望理由書における自己表現方法について）を追加実施し指導強化をはかった。また中学校の進路ガイダンスにおいても、中学2年で1回（生涯設計と進学について）を追加実施することで、中学生に対する進路指導の充実をはかった。</p> <p>音楽科： 本校教員による進路指導だけでなく、実技指導を担当する相愛大学教授陣等による日頃からの進学指導を継続することで、例年半数以上を維持しており（平成27年度67%、平成28年度53%、平成29年度60%、平成30年度54%、令和元年度65%）、2020（令和2）年度は47%とやや低下したが高水準を維持している。</p>
--------------------------	---	---	--

			<p>専攻選択コース：</p> <p>2020（令和2）年度は、従来から実施している相愛大学と本校との入試および進路に関する連絡協議会において様々な情報共有を密にすることで、相愛大学入学者に対する奨学制度の生徒・保護者への周知を強化し、オープンキャンパスの案内を中学・高校全生徒対象におこなうなど、相愛大学への進学がよりスムーズなものとなるよう努めた。その結果、2020（令和2）年度の進学率は19%と徐々に成果が見え始めており、高校在籍数が減少する中でも全体としては進学率約25%を維持することができている。</p>
--	--	--	---

<p>6. 生徒指導に関する事項</p>	<p>(1) 生徒対象 安全かつ健康な生活を目的としたサポート・指導のための講演会の実施</p> <p>① ネットリテラシー ② 思春期教育 ③ 歯科等健康に関する教育 ④ 交通安全に関する教育</p> <p>(2) 教職員対象</p> <p>① 「救命講習」 ② 「カウンセリング研修会」 ③ 「学外の公的協議会への参加」</p>	<p>具体的な講演会等が実施できたか</p> <p>効果がえられたか</p>	<p>(1) 生徒対象 以下の講演会を実施</p> <p>① 「ネットリテラシー講演」 ② 「思春期教育」 ③ 「歯科等健康に関する教育」 歯に対する本校生徒の未処置の割合が減少傾向にあり、活動に一定の効果が見られた。 ④ 「交通安全に関する教育」</p> <p>(2) 教職員対象</p> <p>① 「救命講習」 大阪府中央消防署の協力のもと、AED使用・人工呼吸・心臓マッサージの動画を視聴することで、救急救命の対応に備えた。 ② 「カウンセリング研修会」 本校スクールカウンセラー（2名）による生徒へのアプローチ方法などに関する専門的な研修を実施し、教員の指導力・対応力のさらなる向上をはかった。 ③ 「学外の公的協議会への参加」 大阪私学生徒指導連盟の各種部会へ対面およびオンラインにて8回参加したことをはじめ、その他の公的な協議会等にも積極的に参加し、中学・高校が抱える問題について意見交換・情報共有をし、日々の生徒指導につなげた。</p>
----------------------	--	--	---

<p>7. 入試広報・生徒募集に関する事項</p>	<p>(1) 広報活動の高度化</p> <p>オープンスクール、学校訪問、ブース説明会等の生徒募集イベントの見なおしと強化</p>	<p>イベント参加者数の増加ができたか</p>	<p>2020（令和2）年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、ブース説明会などをはじめとする学外各種イベントの多くが中止となり、実施されたものについても、密を避けるために来場者の人数を大きく制限しての実施となった。また中学校訪問および塾訪問については、1学期に予定されていたものの大半が実施困難となった。そのような状況下においても、郵送等による広報・入試関係資料の送付を随時おこなったほか、予約制による人数を絞った校内見学会を毎週土曜日に行うなど、受験生への接触を維持し、夏以降の生徒募集イベントへと受験生を誘導する活動を継続した。その結果、オープンスクールに関しては、学校見学会を除く実施回数が4回から3回へと減少したにもかかわらず、参加者数は小学6年生が102名（2019年度：92名、2018年度：54名）、中学3年生が256名（2019年度：205名、2018年度：112名）と増加した。またプレテスト、入試対策講座など、オープンスクール以外の中学入試イベントでは前年の127%と前年度を上回る結果となった。</p> <p>中学校では入学者は前年度38名に対して39名とほぼ横ばいであり、高等学校においては専願入学者が77名で前年度比164%（前年度44人）となったものの、内部進学生が減少したことや併願</p>
---------------------------	---	-------------------------	---

		<p>志願者数が増加したか</p>	<p>受験生の戻りが減少するなど、全体としては前年度より10名多い112名に留まった。</p> <p>中学校の入学者は、前年度の39名に対して39名と横ばいであり、高等学校においては専願受験生や内部進学生、併願受験生の戻りが減少し、全体としては前年度より19名減の85名に留まるという厳しい結果となった。</p> <p>この原因としては、コロナ禍による各種ブース説明会等が中止および制限実施となったことや、中学校訪問や塾訪問が当初の計画通りに実施できなかったことによる受験生への直接的・間接的接触の不足に加え、兵庫や奈良など他府県をまたがる通学の敬遠などが考えられる。</p>
--	--	-------------------	--